

# 埼玉岳連

埼玉県山岳連盟  
埼玉岳連報 第38号

発行者 森下 健七郎  
発行所 岳連事務所 天野賢一方  
〒333-0823  
川口市石神179-40  
編集人 岩井田 正昭  
発行部数 1600部



日本山岳協会会長杯（男女個人賞）を田中会長から授与された  
右・細田匠選手（久喜県立工業高校）および 左・小田桃花選手（山口県立防府高等学校）

埼玉県山岳連盟会長 森下健七郎

新年明けまして、おめでとうございます。

昨年度の各委員会の活動は、遭対・指導委員会では、共通科目含む「山岳指導者講習会」企画運営。県内の遭対関係事業。秩父・ブドウ沢の防災ヘリ事故を受け「山岳遭難と安全対策」関係事業等々。自然保護委員会では、県環境部等と一体化活動や、日山協事業への協力等々。

海外委員会は講演会を有料で開催し成功、各種の海外登山活動等々。本年度は、又々団塊の世代の海外登山計画。競技委員会では例年のリード加須・ホルダーR川越や第一回全国高校生C選手権大会（加須市）の主管と成功等々。選手強化委員会は、千葉国体で成年男子・少年女子が悲願の「天皇杯皇后杯8位以内入賞」を達成！ジュニア委員会のジュニア層の育成・国体競技強化関係の協力で貢献等々。事務局や広報等、裏方仕事の活動等々。

以上、滞りなく実施され、次年度に向けて新たな取り組みに向け企画・準備を進めています。又、日山協50周年記念事業への積極的協力・参加と募金協力等の貢献も有りました。

この様に、「衣食足りたら、他人の笑顔」のボランティア的活動を精力的に行えた事は埼玉岳連の誇りと思っています。

本年度は各委員会活動に加えて、関東地区C大会・第2回全国高校生C選手権大会（共に加須市）の主管事業が有ります。組織的には「岳連HP開設」「会員証の利用価値拡大」「会員拡大の研究」「公益的で収益性のある事業創設」等々の課題が有ります。

本年が、会員の一人一人及び各単会や当岳連組織にとつて、益々、生き生きと笑顔で活動出来る事を祈念して新年の挨拶に代えたいと思います。



《第一回全国高校生

クライミング選手権大会》に思う

大会実行副委員長 土屋正昭

大会までの歩みを振り返ると、平成十四年第五十七回高知国体で、前年までの縦走競技・踏査競技・登攀競技の三種目から踏査が無くなり、縦走競技及びクライミング競技と名称も変わって、この時から少年男女にクライミングが導入されました。

その後、平成二十年第六十三回大分国体から縦走競技が廃止となり、ボルダリング競技が導入されて、クライミング競技からリード競技と名称も変更になると共に、山岳競技の新たな時代を迎えています。

そんな国体での変遷がある中で、高校総体(インターハイ)の山岳競技としては、現在も登山競技大会が行われています。

そこで、もつとクライミング競技を普及出来ないかという機運が高まり、今回初めて高校生だけの全国大会を開くことになりました。

本来は昨年開催する予定でしたが、条件が整わず頓挫したものです。

師走の忙しい中、そして世間ではクリスマスというこの時季に、全国大会を担当するのは、相当のエネルギーを必要とします。大変だということとは、最初から分かっていても…。書ききれないほど、紆余曲折がありました。

十二月は、恒例の埼玉岳連主催の県民総合体育大会(コバトククライミングカップ・リード競技)と加須市岳連主催のボルダリング大会があります。

特に加須市岳連では、体協のマラソン大会の

役員も頼まれており、十二月は毎週休日なしで年末を迎えたのです。

しかし、結果として色々大変ではありましたが、第一回を開催出来たことは良かったと思います。

そして、誰もがそこまでは、多分予想しなかったであろう。男子の個人と、学校団体優勝を埼玉が手にした。

優勝は、東の千葉県・西の山口県と思っただけ。とところがどっこい。

地元埼玉を忘れていませんか。と、頑張った細田君と青木君には、「あっぱれ！」を挙げたい。立場上では、公平に運営しなければいけないと承知はしていても、この時ばかりは自然と力が入り、思わず「良くやった」と声が出た。

初回としては、三十三都道府県から男子百二十三人、女子が七十人の合計百九十三人の参加と大盛況でした。

今後大会を継続していくためには、多くの協力者(ボランティア)が必。

特別協賛を頂いたマムート様や地元加須市をはじめ、関係者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

毎年恒例の大会にしたいと望む人が大勢いたことは、主催者の一人として大変有り難く思います。なお、大会の詳細については、(社)日本山岳協会のHPか三月のロック&スノーをご覧ください。

成績

【男子リード総合成績】

- 1位 細田 匠 (埼玉県)
- 2位 樋口 純裕 (佐賀県)
- 3位 羽鎌田 直人 (千葉県)



【女子リード総合成績】

- 1位 小田 桃花 (山口県)
- 2位 安田 あとり (山梨県)
- 3位 新城 綾那 (京都府)

【学校団体・男子】

- 1位 埼玉県立久喜工業高等学校 (細田 匠、青木 大輔)
- 2位 千葉県立幕張総合高等学校
- 3位 千葉県科大付属高等学校

【学校団体・女子】

- 1位 山口県立新南陽高等学校
- 2位 千葉県立幕張総合高等学校
- 3位 山口県立防府高等学校



団体入賞チーム (1位から5位)



埼玉県山岳連盟 【理事会】 報告

平成22年11月9日(火)午後7時30分  
北本市中央公民館 第3会議室

出席 森下会長、柳原副会長、石倉副会長、天野理事長、瀬藤副理事長、岩井田広報委員長、土屋競技委員長、大石ジュニア委員長、宇津木強化委員長、岩崎自然保護委員長、野村指導委員長、大山理事(山学同人比企)、道浦理事(KSCC)、岡野理事(蓮田山岳会)、堀江理事(桜草山の会)、大成理事(さいたま市役所アルピナ)、町田理事(大宮アルパイン)、仙波理事(槻岳友会)、松井理事(高体連)、小茂田理事(高体連)、柴崎理事(川口登山同好会)、桜井理事(壁稜山岳会)、東川代表(理事代行)大宮岳稜会、伊藤理事(防衛医大)、竹中理事(たらっぺ山の会)、塩谷理事(大宮山岳会)、加藤事務局長(深谷山岳会)・計27名

1 開会挨拶(柳原副会長) 先週、静岡県で開催された全日本登山大会に参加。埼玉開催も近いと囁かれてきました。

2 挨拶(森下会長) 22年度も半年が過ぎました。各種事業も順調に進んでいます。が、宜しく願います。

3 報告

① 千葉国体・少年女子リード5位、ボルダリング3位、総合6位 成年男子ボルダリング4位、総合7位 天皇杯7位、皇后杯6位。 11～30 祝賀会開催、11～9 国体解団式・表彰式、天野理事長、宇津木強化委員長、尾上選手、是永選手参加

② 和名倉山登山及び植林地整備(仁田小屋尾

根コース) 10～9・10・30名参加

③ 第49回全日本登山体育大会10～22

10～24 静岡県参加者：大野参与、柳原副会長、柳下理事他2名

④ 都岳連元会長「森谷重二郎を偲ぶ会」

10～28 参加者：田中名誉会長(日山協会会長)、森下会長、石倉副会長、長谷川理事(日山協常務理事)

4 協議

(1) 日山協創立50周年記念功労者表彰候補者の推薦について

浅見豊、平沼伸一、田中文男、森下健七郎、柳原政一、石倉昭一、福田靖、佐藤求、内野安登、天野賢一、瀬藤武、野村善弥、土屋正昭、松井恒和、宇津木秀二、佐藤豊、小茂田利孝、鈴木直樹、塩谷壽子、烏辰克、岩崎繁夫、山口定男、新井宏司、仙波義雄、長谷川茂、大倉至、大石智章、鎌田雅浩、岩井田正昭、村岡正巳、加藤富之(岩崎元郎・惠秀彦氏を追加) 推薦済み↓了承

(2) 日山協創立50周年記念募金について

・ 埼玉県山岳連盟として一口2,000円で各会に呼びかけ。計10万円を目標とする。  
この場合は、個人名は公表されない。  
・ 広報発送(10～19予定)と同時に募金協力のお知らせをする。(担当：岩井田・森下)  
11月末日締め切り、11月の理事会でも集める。  
↓締め切り日は考慮する。

(3) 県岳連のロゴマークについて

・ 広報発送と同時に公募通知済み(担当：岩井田・森下)。締め切り12月末日

・ 県岳連の広報の題字は、故清水武甲氏の揮毫。岳連で自由に使って良いと承諾を得る(柳原)

(4) 第1回全国高校生クライミング大会について 12～25・26  
・ 参加者は各県4名位/計200名 入場無料 観戦者を多くして盛り上げたい。

(5) 冬山遭難防止講習会(救急医療研修会)について

・ 11～27 県活センター、11～28 上尾スポ研 申込み締切11～21・宿泊希望者は、連絡下さい。惠秀彦先生の本「登山者のためのフアーストエイド・ブック」を販売予定(サイン本)

・ 県防災ヘリ関係 11～7の朝日新聞等で再会の記事↓平地では出動を始めた。

☆有料化は無い方向である。  
☆山岳地については、ガイドラインが出来てから出動開始。

☆ガイドラインの内容として、凹角の沢には、救助に降りない。↓尾根まで上げてから、吊り上げ。吊り上げポイントを指定する方向。↓ポイントを持って入山

(6) コバトンカップ(県体クライミング)について

・ 12～12・開催 90名規模11～30 締切り セッター：角田大樹、佐々木政明

(7) 積雪期登山講習会について  
1～15・16 那須 同時に指導員研修会開催。指導員養成講座・検定も

(8) 国体祝賀会の開催について

◆日時：11月30日 午後7時～9時  
◆会場：浦和駅西口伊勢丹7階グロバールホール「南国酒家」◆会費：5,000円◆参加希望者は、小茂田理事まで

(9) ホームページについて・新アドレスに移行中・今年中にオープン予定!



(10)その他

・海外委員会講演会について

◆11月25日午後7時〜大宮ソニックシティビル906号室 ★100名 予約無し、講師：平出和也 演題：「未踏ルートへのこだわり・限界への挑戦」会費：500円（資料代）協定の締結について 配布済み資料のとり協定の締結をしております。ご利用をお願いいたします。

「まんてん星の湯」の無料券が5枚来ました。欲しい方は、事務局まで連絡下さい。

・11〜3 第1回日本山岳遺産サミット山梨が開催されました。 広報・岩井田参加  
・長谷川理事より（熊谷山岳会：日山協・常務理事自然保護委員長）今まで、毎月、日山協でいろいろ活動してきました。なかなか県の理事会に参加できませんでした。これから出来るだけ参加し、日山協の様子を伝えていきます。今年度は、日山協50周年記念事業でいろいろお世話になります。

5 各部からの報告等

①指導委員会

●11〜6 指導員養成講習会（加須）開催しました。

○11〜21・22 日山協登攀研修会（富山）

野村参加また、主任検定員の養成として瀬藤副理事長（遭対委員長）を派遣（指導委員として）。

②競技委員会

○来年度、埼玉岳連が関東クライミング大会を主管。11月中旬あたりで調整（種目に関する）

・日本山岳協会（競技委員会）が、「トレイルランニング」の国内中央団体となる。

※UIAAが加盟したため。（国際大会等への派遣に関して）

③選手強化委員会

・第12回関東地区スポーツクライミング大会11〜14・日栃木県今市青少年スポーツセンター  
・日本選手権大会11〜27・28（福島県）等に強化選手参加。

④遭難対策委員会

1〜28・30・日山協積雪期レスキュー講習会↓昨年より2泊3日たっぷり雪ほりができる。雪崩れネットワークの講師がみっちり指導。

⑤海外登山委員会

・清掃登山の報告書（CD）の完成。参加団体に配布しました。希望者は、連絡下さい。

○日山協自然保護指導員講習会 11〜26

18・30〜21・00 オリンピック記念青少年センター 500円都岳連主管 ★参加希望者は、岩崎委員長へ連絡。

○ジュニア委員会

⑦秋の東西南北の各地区大会の開催。

10〜29・31 関東大会は、箱根にて開催されたが、台風で初めから体育館泊まりでした。

⑧広報委員会

●10〜12 第37号発行8P/1600部

○次回 1〜31発行予定。

⑨企画委員会

・村岡委員長が中国へ行っているが、委員会活動をどうにかしたい。

⑩事務局

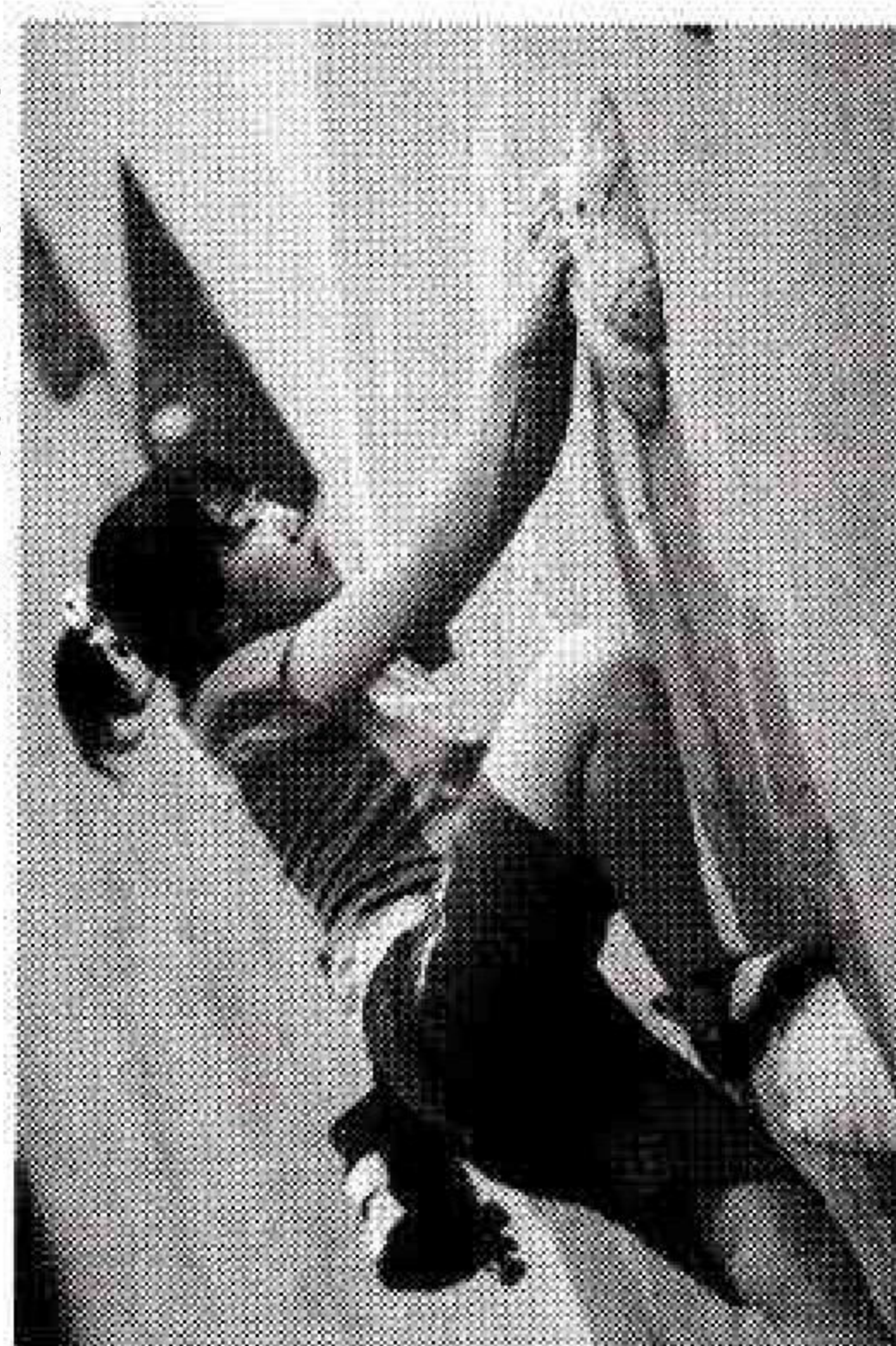
○会員証発行状況約500枚★さらなる追加発行をお願いしたい。

○次回の理事会は、新年会を兼ねます。1月21日・18・30〜理事会 19・00新年会の予定です。会場は、昨年度と同じで、川越市「さわや」。後日、案内します。（岩井田・森下）来年度から、東西南北の地区を廻るよう設定しましょうか？（課題）

○平成23年度評議員総会の日程4月11日・大宮ソニックの予定で会場（ソニックは全館貸し切りのため他の会場を探しています。）

6. 閉会挨拶（石倉副会長）

□次回  
常任理事会12月14日・北本中央公民館  
理事会・新年会1月21日 川越・さわや



華麗に！ 尾上彩選手

「千葉国体を振り返って」

少年女子監督 宇津木秀一

千葉国体では成年男子の大活躍もあり、天皇杯7位、皇后杯6位と山岳競技としては埼玉国体以来の好成績を残すことができました。少年女子は監督の私も選手二人も初めての国体で、いろいろな不安もありましたが、ボルダリング3位、リード5位の成績をあげることができ、埼玉県代表としての責任は果たせたと選手共々ほっとしているところです。この国体で私たち



埼玉チームを支援して下さった埼玉県山岳連盟の皆様、度重なる強化練習で指導にあたって下さった強化委員の皆様へ感謝申し上げます。

この国体を振り返ると尾上彩選手(川口南中)と是永つぐみ選手(東京家政大付属高校)の息の合った競技が印象に残っています。特にボルダリング競技は6分間という限られた時間の中で課題に挑戦し、お互いの競技を見ながらアドバンスし合えるものなのでチームワークが不可欠です。同じジムで練習して互いの長所、短所を知り尽くしてきた二人は適切な判断をもって十分に力を発揮してくれました。その結果、尾上選手は4課題全てに完登し個人成績1位を獲得することができました。尾上選手は小学生時代すでに日本選手権優勝という輝かしい成果あげ、日本代表として世界大会でも活躍している。今後は尾上選手を中心としたチーム編成で国体優勝を狙っていききたいと考えています。

クライミング競技はクライミング壁の状態にも大きな影響を受けます。複数回行った現地での事前の強化練習も好成绩につながった一因だったと思います。関東ブロック大会で1回、本国体で2回の現地強化練習によってクライミング壁の傾斜や材質を知ることができたので国体初出場の二人は落ち着いて競技に臨むことができました。

関東地区は強豪チームが多く、決勝進出8県に関東勢が4県もひしめいている状況で、関東ブロック突破すなわち国体上位入賞ということになります。今後はさらに選手層の底辺拡充、指導者の育成に努め、まずは来年の茨城での関東ブロック突破を目指したいと思います。



一瞬の技! 角田大樹選手

《千葉国体・入賞祝賀会》開催される

平成22年11月30日・浦和「南国酒家」於  
 さる8月に行われた千葉国体で埼玉国体以来の好成績を残した選手、監督を囲み関係者による入賞祝賀会が盛会に行われた。

加藤事務局長の司会により進行し、天野理事長開会の挨拶後、森下会長の祝辞をはじめ、小茂田強化委員が撮影した競技大会ライブ映像を約1時間ほど鑑賞。食事歓談後、祝賀会を代表して塩谷壽子理事から宇津木監督へ花束贈呈があり、選手にも花束やスナップ写真CDの贈呈、宇津木監督から選手紹介がおこなわれ、各選手から入賞の感想や今後の抱負を熱く、楽しく語ってもらった。

参加者は宇津木監督、角田選手、是永選手、尾上選手、森林選手、尾上選手御母様、御子息、森林選手・御主人、県岳連から森下会長、石倉副会長、柳原副会長、天野理事長、古峰加須市岳連会長、土屋、瀬藤、鈴木、岩井田、各委員長、塩谷、町田、竹越、岡野、樫浦、内海、小茂田各理事。参加者24名あり、閉会前に集合記念写真撮影をおこない午後10時ごろ散会した。

敬称略(文・写真) 広報・岩井田



祝賀会で懇談中の関係者



千葉国体に参加した選手、監督を囲んで



### 第23回 県民総合体育大会 『コバトンクライミングカップ2010』を終えて

クライミングに「まぐれ」はない。失敗して登れなかった話はあっても、「たまたま」、「ついでた」、「番狂わせ」等々の「まぐれ」で登れた話はクライミングには存在しない。

クライミングとは、常日頃どこまで自分を追い込んで練習をしているか問われるスポーツである。クライミングコンペならなおいっそうの追い込みが必要である。

今回のコバトンカップも例外でなく、次のホールドを取れたか、取れなかったギリギリが勝負の分かれ道であった。地方大会とはいえ、激登が続きそれを見ている我々も熱くさせてもらい、思わず「ガンバ！」のかけ声を掛けていた。加須市民体育館に常設してある壁を通称「加須ウォール」と呼ぶ。

過去、この壁を使用した大会に出場し活躍した選手を見ると、世界に羽ばたくクライマーに数多くなっている。この「加須ウォール」は、日本のクライミング界の登竜門的な壁であることは言うまでもない。

今回のコバトンカップでも出場する選手の大半は10台〜20台前半のごく普通の若者で「最近の若いもん」だ。

この「若いもん」が一旦登り始めると誰の助けも無く己の力のみで次のホールドを取りに行き後半になって疲れてきても必死になって、一手でも多く上へ登る、届かなくても手を出して上の壁に挑む姿は「最近の若いもん」は、やるじゃん！と思わざるを得ない。

この「若いもん」連中を見ていると間違いなくこの中から次世代の世界的クライマーが誕生

するであろう。それが兄貴世代クライマーを持ち上げて、さらには親世代を持ち上げるとつもないパワーを持つてる連中だと思う。そしてその「若いもん」連中は社会に出ても活躍するであろう。世間が求める「若いもん」の気質をすべて兼ね備えているので活躍は大いに期待するところである。

選手が表のパフォーマーとするならば、裏のパフォーマーはルートセッターだろう。必死に登ってくる選手を途中でたたき落とす役割だ。ルートセットでホールドを厳しくするのは簡単だが、単に厳しくするだけでは見ている者としてはつまらない。やはり主催者や観客をも喜ばし、選手にも見せ場を作れるようなルートを作り、それでいて順番を付けなければならぬ。大会全体すべてを知り尽くし者でなければ出来ない偉業である。

今回のチーフルートセッターは角田大樹氏で行った。今では日本を代表する選手だが、彼もこの加須ウォールで鍛えて育った選手の一人だ。大会準備中、幾度も試登を繰り返シクタクタになりながらルート作る姿を見ていると数々の名勝負を演出してきた先輩ルートセッター達の姿とだぶって見える。加須ウォールは選手の登竜門であると同時に、ルートセッターの登竜門であると自負する。

今回も見事にセッターの役割を果たしてくれて大会は大いに盛り上がり、怪我、事故、競技トラブルもなく無事に大会を終える事が出来たセッター陣に感謝する。

コバトンクライミングカップ競技委員会

加須市山岳連盟事務局 道浦 陽司



賞状・賞品を手に 入賞おめでとう！



チーフルートセッターの角田大樹氏による講評



### 平成22年度 冬山遭難防止講習会・報告

遭難対策委員長 瀬藤 武

平成22年11月27、28日の両日に渡り「冬山遭難防止講習会」を行い、27日59名、28日51名、延べ110名の受講者が参加されました。今回の講習は、指導員養成講座も兼ねており受講22名（指導員7名、上級指導員15名）も加わっており救助シミュレーションでは非常に熱心に取り組んでおりました。今回の会場は、27日は県民活動センターで28日はスポーツ研修センターの2箇所となり、更に要項の公表が遅れ参加者にご迷惑を掛けたことお詫び申し上げます。

さて、27日は今年「登山者のためのファーストエイド・ブック」を出版された恵氏と藤柘氏のお二方に講師をお願いし以下の項目で山の救急医療講習を行いました。

1. 『安全対策の基本』安全対策と自己管理  
登山中の怪我や病気の予防。
  2. 『突然死と二次救命』2010年一次救命処置ガイドラインの変更について。
  3. 『転倒、転落、滑落による怪我』高エネルギー  
―外傷の応急手当、関節、筋肉損傷の観察、評価と応急手当。
  4. 『怪我の手当てと順序』状況評価と安全確保、感染防止。
  5. 『暑熱寒冷障害』熱中症、低体温症、凍傷。
  6. 『その他応急手当』危険な生物、動物、植物。
- 総合演習：上級指導員養成講座受講生が3班に分かれて実施。終了予定は午後4時過ぎでしたが、皆さん非常に熱心で予定時刻を大幅に超過する6時過ぎまで行われました。
- 夜は、今回初の試みとし上尾のスポーツ研修センターに宿泊し指導員養成講座受講者とスタッフ並びに県岳連・森下会長をお迎えし「登山



瀬藤委員長の見守る中を搬送実技

展望・・・」講座が遅くまで行われ、翌28日はスポーツ研修センターで午前中は搬送訓練、午後には県警救助隊の講演を実施しました。

搬送訓練、昨年は皆さん熱が入り部屋の表まで搬送し施設課より嚴重注意を受けましたが、今年の受講生の方は冷静な方が多いのかそのようなことは有りませんでした。今回特に行ったのは、「ログアップ」、「ログロール」、「ツェルトの収納・設営」を行いました。

午後は、埼玉県秩父警察署の山岳救助隊・飯田副隊長をお迎えし秩父山塊の遭難状況を講演していただきました。7月に発生した秩父大滝沢での防災ヘリ墜落事故のてんまつは以下の通りで秩父のみならず国内でも珍しい四次遭難となっていましたとのこと。

①勤労者山岳連盟登山者滑落（一次遭難）1名

死亡、大滝沢は易しい沢と認識か？。

②通報を受け出場した防災ヘリ墜落・二次遭難5名死亡。

③一次・二次遭難者救助、遭難事故見学者の三次遭難・1名死亡。

④日本テレビ記者の四次遭難2名死亡。  
その他 ミシラン効果・富士山効果（高尾山↓富士山登山）と思われる山ガールそれに釣られる（？）山ボーイの異常発生により秩父での遭難事故は過去最高となっている。遭難常習者（マニア）の発生。単独登山者の遭難多発等・・・

【県警としてお願い】  
①登山計画書の届出（決して県警でなくとも、家族・友人知人は知らせてあれば迅速な捜索が可能）  
②装備の用意及び習熟（持っていないも使えない・売りっ放し）  
③地図の携行（ガイドブックも必要であるが地形図も必携）  
④救助の手伝い（当事者の山岳会等への要請、県警との共同救助は考えてない↓救助は県で行うが遭難者への家族対応や補給物資の運搬をお願いしたいが行える山岳会が無い）

今回遭難でも計画書には救助体制があると記載してあったが、実際は無かった。形式にとらわれず実態に即した有効な計画書を望むとのこと。等ビデオを交え得意の話し術で講演を行っていただきました。

今回の講習会以外ですが、防災ヘリ墜落に伴う「埼玉県防災航空隊山岳救助活動ガイドライン」が発足し関係機関が集まり今後同様の事が無いようにガイドラインの作成に、県岳連から参加しております。県警航空隊及び防災航空隊の方々とお話をしました。

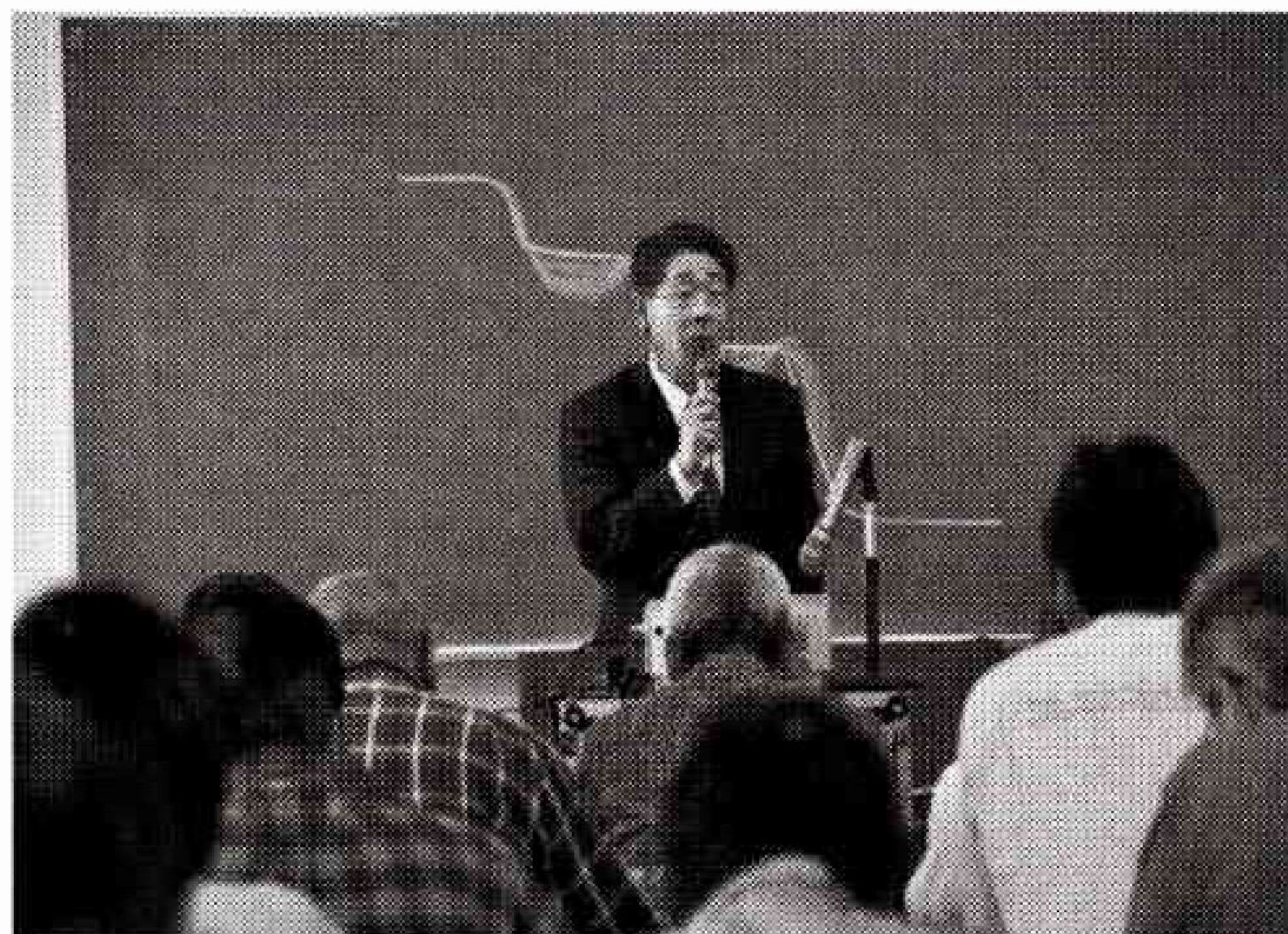


山岳遭難での救助は非常に難しいが人命及びご家族のことを考えると運行規約や少々の危険があっても遂行しなければならぬ。」と語っており、防災航空隊の隊長からは「自分達の事故で関係者（山岳関係者）に迷惑を掛け本当に申し訳ない」と言っておられました。遭難しなくては山に入る登山者はいませんが安易に遭難する登山者が大変増えております、任務とはいえ命を掛けた危険な仕事です。登山を趣味とする登山者として本当にありがたい言葉です。

関係者の間では「遭難事故は県警や防災航空隊で対処できるが遭難防止は日本山岳協会や各県岳連等の登山者団体が行うべきものである。」との認識です。今後は、県岳連として遭難対策委員会として何が問題か、何が出来るか、何行わなければならないか考えさせられました。「埼玉県防災航空隊山岳救助活動ガイドライン」は中間報告が出され、防災ヘリの山岳救助が開始される予定です。新聞等で山岳救助ヘリの有料化が出ていました。私個人としては自己啓蒙にもなると賛成ですが、関係者は口を揃えて「そんなことはしなくて良い。事故があれば私どもが救助（任務ですから）に行きます。」と言っています。

登山装備やGPS及びビーコン及び航空ヘリの拡充など年々最新の機材が発売・用意されており迅速な救助が可能となっております。

しかし、遭難しないことが一番重要で、登山前の事前調査・検討、登山中の天候・パーティーの動向・行動の把握を充分に行いイザという時には最新の装備利用や行動を中止しパーティー全員が無事に下山する。山の遭難は自己責任です。ですが、イザという時のみは関係機関に救助を依頼するようにしましょう。



遭難事案を解説する飯田副隊長



聴講の会場

(社) 日本山岳協会・創立50周年  
記念式典・祝賀会

式典表彰式・マツ・ヒメヤール  
祝賀会・フ・ロビン・ブッシュ

平成23年1月16日東京プリンスホテルにおいて50周年記念式典・祝賀会が開催されました。式典の司会は尾形日山協事務局長が行い日本山岳協会・田中会長の式辞のあと、来賓としてご出席戴いた文部科学省藤原大臣官房審議官のご祝辞があり、表彰式に移った。

表彰者694名を代表し、大分岳連・首藤宏史さんが田中会長から賞状を授与され、代表謝辞を行った。創立50周年記念感謝状贈呈が続けて行われ11件に対し感謝状贈呈があり県内からは加須市・大橋市長が表彰されました。

その他国際山岳連盟(UIMM)名誉会員之証を斉藤一男さん(元日本山岳協会会長)がUIMMマイク・モーティア会長から授与。

続いて第1回日本山岳グランプリ顕彰が行われ第1回日本山岳グランプリ賞に「NPO法人・ヒマラヤ・グリーン・クラブ」が幅広いボランティア活動に敬意を表されて受賞。

グランプリ特別賞に永年の功績に対し斉藤一男さんが受賞。

2011年海外登山奨励金交付登山隊として【GIRI GIRI BOYS ウルタルII峰登山隊2100】に奨励金が授与された。式典終了後、隣接する祝賀会会場に移動、皇太子殿下を拍手でお迎えしご着席のあと、日山協・田中会長挨拶、UIMMマイク・モーティア会長の来賓祝辞、鏡開き、乾杯を行った。正賓・歓談後アトラクションなどが行われたあと、皇太子殿下のご退席があり、内藤副会長の謝辞をもって祝賀会は終了した。



県内受賞者一覽 敬称略・順不同

- 浅見 豊 名誉顧問：恵流峰会
- 平沼 伸一 参与：小川山の会
- 新井 宏司 参与：奥武蔵マウンテニアターナル
- 山口 定男 参与：我逢人信越山の会
- 大野 幾雄 参与：戸田山の会
- 大久保孟 参与：桶川山の会
- 北田 紘一 参与：浦和西岳友会
- 柳下 明男 参与：山岳同人埼玉
- 田中 文男 名誉会長：浦和山岳会
- 森下健七郎 会長：高体連登山専門部
- 柳原 政一 副会長：小鹿野山岳会
- 石倉 昭一 副会長：大宮マウンテニアターナル
- 福田 靖 副会長：たらつぺ山の会
- 佐藤 求 監事：あゆむ山の会
- 内野 安登 監事：エコー山の会
- 天野 賢一 理事長：遠峰山岳会
- 瀬藤 武 副理事長：浦和溪稜山岳会
- 兼遭難対策員長
- 加藤 富之 事務局長：深谷山岳会
- 鈴木 直樹 海外登山委員長
- 野村 善弥 指導委員長：あゆむ山の会
- 土屋 正昭 競技委員長
- 宇津木秀二 選手強化委員長：高体連
- 岩崎 繁夫 自然保護委員長：戸田山の会
- 大石 智章 ジュニア委員長：高体連
- 岩井田正昭 広報委員長
- 村岡 正巳 企画委員長
- 松井 恒和 理事：高体連登山専門部
- 大倉 至 理事：高体連登山専門部

○佐藤 豊 理事：MountainAthletesSaitama

○小茂田利孝 理事：遠峰山岳会

塩谷 壽子 理事：大宮山岳会

鳥 辰克 理事：グマアプ・ト・ピカ

○仙波 義雄 理事：槻岳友会

○長谷川 茂 理事：熊谷山岳会

鎌田 雅浩 理事：高体連

○古峰 孝 加須市山岳連盟会長

岩崎 元郎 無名山塾・主宰

○恵 秀彦 (日山協・理事)

※ ○は印 式典参加者37名



満員の表彰式会場・東京プリンスホテルにて

地」を未来に繋ぐため「水源地である山からゴ

ミ」を無くす目的で今年度も「水源地清掃ハイ

キング」を寄居町の「仙元名水」水源の仙元山

と対峙している「車山227m」で実施致しました。

期 日：平成22年11月27日(土) 晴れ

場 所：寄居町「車山(226.8m)」

参加者：戸田市環境クリーン室2名、戸田市民

協力者5名、寄居町世話人3名、熊谷壁稜山岳

会1名、戸田市山岳連盟会員18名・合計29名

※「水源地清掃」ハイキングを終えて、

天候に恵まれて寄居町の紅葉が盛りの里山へ！

戦国時代の難攻不落の居城「鉢形城」攻めに

砲台としたと言われる車山にて行いました。

ハイキング道にはゴミは殆んど無く(多分森

下氏が拾ったものと思う)初頭の冬山のハイキ

ングを楽しみましたが、「ゆずのき幼稚園」から

県道に出ると畑沿いに多くの「空き缶」や「ペ

ットボトル」「タバコの吸殻」が多く捨てられて

いた。車から捨てられた物？また、三品川沿い

の道沿いに古い家庭ゴミが埋もれて見苦しい状

況でしたが畑の端なので収集はしなかった。

寄居町で確認し処分方。熊谷壁稜山岳会：桜井

会長(西の入在住)や森下氏から昨年の仙元山

(オツパイ山)に続き懇親会時にビール、チュ

ウハイの差仕入れを戴き、森下氏(三品地区在

往)からは「ゆず・ミカン」のお土産を今年も戴

き有難う御座います。また、戸田市役所環境ク

リーン室の新井課長、後藤主査のお二人にも参

加して戴きました。市役所からも参加賞を戴い

た事を併せて報告いたします。

最後にこの「水源地清掃ハイキング」に御協力

戴きました多くの皆様に心から御礼申し上げます

ます 戸田市山岳連盟会長：岩崎繁夫記

平成22年度「水源地清掃ハイキング」

山は全ての源であり綺麗な「水」「空気」「大



各委員会の計画 (2月～4月)

敬称略。順不同

1・遭難対策委員会

○緊急避難講習会・指導委・合同

期 日：2/26～27 場所：谷川岳下部

参加資格・県岳連会員

○遭難対策委員会+レスキュー研究会合同

岩場でのリードレスキュー研修

期 日：3/5～3/6 場所：飯能付近

参加資格・県岳連会員

2・自然保護委員会

○第3回自然観察会

期 日：3/12～3/13 場所：雲取山

参加資格・県岳連会員

○自然保護委員会総会

期 日：4/9～4/10 場所：小鹿野

参加資格・県岳連・自然保護委員

3・海外登山委員会

○委員会・例会

期 日：2/1 場所：大宮ポプラ

○2011彩の国メラ・ピーク登山隊

期 日：3/31～4/22 場所：ネパール

海外登山委員会・後援 締切

4・事務局

○常任理事会

期 日：2/8 場所：北本公民館

参加者：常任理事

○関東地区山岳連盟総会

期 日：2/5 場所：磯部温泉

参加者：森下、福田、天野、土屋、加藤

○23年度評議員総会

期 日：4/17 場所：北本公民館

参加者：評議員・理事・常任理事

平成23年1月 理事会・兼新年会

1月21日午後7時より恒例となった川越・さわやにて今年最初の理事会を行い、合わせて新年会を開催した。理事、評議員、他一般会員合計29名の参加があり森下会長、天野理事長から新年に向けての祝辞、挨拶があった。理事会・新年会の参加者は29名で以下の通り。

(敬称略・順不同)

森下会長(高体連)、中島評議員(川越)、高橋(川越)、新井(川越)、長谷川理事(熊谷)、柳原副会長(小鹿野)、石倉副会長(大宮AC)、天野理事長(遠峰)、加藤事務局長(深谷)、土屋委員長(加須SC)、岩崎委員長(戸田)、塩谷理事(大宮)、小高評議員(熊谷ミミ)、鈴木理事(無名)、寺井(大宮)、熊谷評議員(蓮田)、瀬藤副理事長(溪稜)、堀江理事(桜草)、佐藤理事(MAS)、松井理事(高体連)、風間(溪稜)、相沢(川口)



理事会。新年会を開催 (川越・さわや)

柴崎理事(川口)、伊藤理事(防医大)、菊谷(防医大)、三木(防医大)、岡野理事(蓮田)、吉田理事(大宮)、岩井田(川越)

【理事局便り】

田中名誉会長から山岳写真カレンダー《埼玉県山岳連盟》を昨年も御好意により多数寄贈を戴きましたのであわせてご報告いたします。

今回も理事会に参加された各理事、および昨年末の冬山遭難防止講習会に参加された受講生の方々に優先的に配り致しましたのでご了承ください。

広報・岩井田

【編集後記】

昨年末に開催された『第1回全国高校生C大会』の詳細は既報の通りですが、埼玉県が個人男子、団体の初代優勝の栄誉に！とは思ってもよらず、目頭が熱くなりました。多くの感動を残した選手の健闘を又今年も是非見たい。 M.T.

年末の東京雲稜会創立60周年に佐藤会長(あゆむ山の会)と参加した折、東京緑山岳会の寺田会長がお見えにならないので知人に伺ったところ最近(11月3日逝去)お亡くなりになったと聞き大変残念に思った。丁度10年前に同じ会の創立記念会場の帰りに佐藤会長と新宿駅までご案内してホームでお別れしたのが最後だった。(数日後、お礼です。のメモと一緒にご本人から直筆の署名入り本が贈られてきた)

大変律儀な好々爺の印象深いお人柄だった。山溪の「昭和の伝説的登山家逝く」を読んで。緑山岳会会長寺田甲子男さん(行年87歳)合掌

広報・Oniwaida